

偏在問題に対する各中学校区の主なご意見

資料2

(大住中学校区)

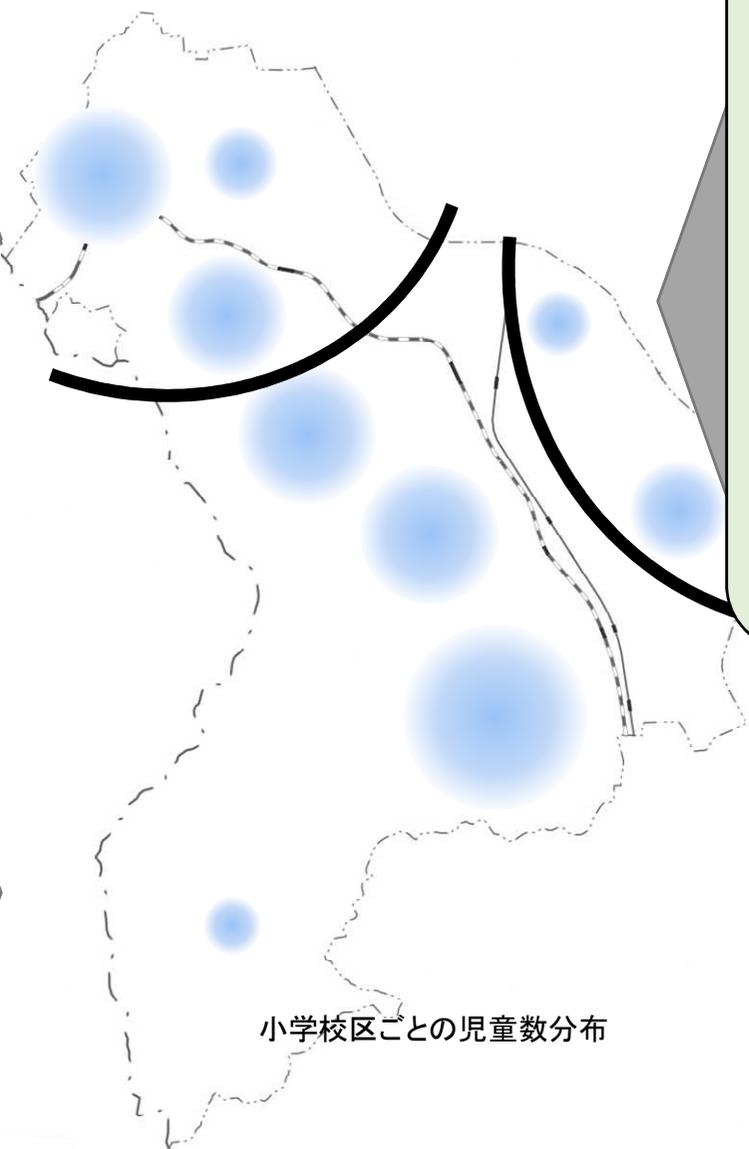
- 100年を超えた歴史を抱える学校もあり、校区再編となると難しい
- 小規模校はPTA活動等学校運営面で負担もあるが、学習生活面では利点も多い。普賢寺小学校や培良中学校のように特色を生かした取組を進めてはどうか
- 通学区域を維持しながらも、市内全域又は中学校区内で選択制度を導入するのはどうか
- 即効性があるのはやはり校区再編。過去に分離新設した学校であれば元に戻せばいいのではないかと

(田辺中学校区)

- 過大規模校では学習面での課題に加え、安全面でも問題があり、早急な解決が必要
- 新設校・小中一貫校・低学年分校についてもしっかり検討すべき
- 校区選択制を採用するならば併せてスクールバスも検討すべき。加えて、選択先の学校には留守家庭児童会が併設されているのが条件
- 小規模校の子どもたちが進学した学校で戸惑うことがないようにできないか
- 各学校の成り立ち・立地から校区再編に対する地元の根強い抵抗感はある。
- 校区変更で影響を受ける保護者は納得できないという意見が多数ある

(培良中学校区)

- 小規模校は教師と子どもたちの距離感が近く、良い面もあるのでそのあたりは大切に取組を進めてもらいたい
- 公立校で差別化するのは公平性に欠く。長期を見越した校区再編を検討すべき
- 部活動の面等から小規模校の子どもたちにも学校を選択することができれば
- 偏在と特色化の議論は同時進行が難しいのではないかと
- 小規模化のさらなる進行を食い止める施策を早急に検討すべき。地元の間人として廃校というのは避けたい
- 小規模校を抱える校区として、他校区からの受入れについて拒むことはない



小学校区ごとの児童数分布

1,000人

500人

250人

50人